

産婦人科（生殖医療）・総合生殖医療センター

1. 概要

今年は、多胎妊娠を完全に無くすことができた。これは良質な生殖医療を提供できているという最も信頼できる指標であり、誇るべき成果である。

当センターの特色は、①地元密着型生殖医療、②世界初のタイムラプスインキュベーターによる全受精卵動画観察、③テラーメイド（個別化）調節卵巣刺激、④全例単胚移植（SET）、⑤経膈エコー下胚移植、⑥周産期医療や他診療科との連携、⑥不妊カウンセリングケア導入による全人的医療ケアであり、今年も良質な医療をスタッフ一丸となって進めてきた。

本年、新たに超高倍率顕微鏡観察により良好精子を選択して顕微授精を行うIMSI（イムジー）を導入した。今年も7演題を国際学会に発表した。うち1演題分は公費により参加させていただいた。

（部長 安藤 寿夫）

2013年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	47	40	25	28	7	16	7
2月	38	26	20	21	9	5	3
3月	27	23	18	11	6	10	4
4月	34	30	17	16	3	11	8
5月	25	19	11	9	2	10	4
6月	34	30	23	16	1	9	3
7月	20	18	9	13	4	5	2
8月	25	23	16	19	3	7	4
9月	27	21	14	8	2	15	5
10月	18	11	6	5	2	10	3
11月	31	29	23	16	5	9	3
12月	16	12	10	8	0	6	1
計	342	282	192	170	44	113	47
妊娠率					25.9%	41.6%	

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

●不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例）（件）

体外受精－新鮮胚移植	46 (0)
融解胚移植	46 (0)
排卵誘発	13 (0)
人工授精	11 (0)
習慣流産	5 (0)
タイミング法・その他	35 (0)
計（重複例を除く）	140 (0)